令和９年度　大学院連合教職実践研究科入学者選抜（10 月選抜）

学校臨床力高度化系
専門科目：記述式総合問題

【解答・解答例】

設問１（配点 100 点各問 20 点）

●ジョン・デューイ

例：教育を「経験を通した学び」と捉え、学校は民主主義の性質をもった小さな社会として機能すべきと説いた。教育は連続的な成長のプロセスであると考え、行動のみならず内省も重視しているアメリカの哲学者である。

●パフォーマンス評価

例：学習者が知識や技能を実際の課題で如何に活用できるかを測る評価方法である。思考力・問題解決力などの「学びの質」を重視し、実践的な学習成果を捉える教育学的アプローチである。ルーブリックを用いることも多い。

●キャリア教育

例：社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしく生きるために必要な能力や態度を育てる教育である。自己理解や進路選択、社会との関わりを通して、主体的に生きる力を培うことを目的とする取り組みである。

●生徒指導提要

例：文部科学省が学校における生徒指導の基本的な考え方や方法を示した手引書である。児童生徒の人格形成を支え、問題行動への対応だけでなく、自己指導能力の育成や学校生活への適応を重視している。

●通級指導

例：通常学級に在籍する児童生徒が学習上・生活上の困難を改善・克服するため、必要な時間に別の場で特別な指導を受ける仕組みである。個々の発達特性に応じた学びを保障し、多様な学習ニーズに応える教育的支援である。

●一条校

例：学校教育法第１条に定められた「学校」として、学習指導要領に基づき体系的な学びを保障する教育機関である。子どもの発達を踏まえ、基礎的・汎用的能力を育成する公的教育の中心的役割を担う。

●同僚性

例：教員同士が対等な立場で互いに支え合い、協働して教育活動の質を高める関係性を指す。情報や実践を共有し、授業や生徒指導について学び合うことで、個々の教員の成長と学校組織の活性化につなげる意味をもつ。

●教職大学院

例：高度専門職業人としての教員を養成する専門職大学院である。理論と実践の往還を重視し、学校現場での実習や課題解決型の学修を通して、実践的指導力を備えた教員の育成を目指す。現職教員の資質向上にも対応する。

【出題の意図】

設問 2（配点 100 点各問 50 点）

いじめ防止対策推進法の制定から 10 年以上が経ち、教員にも保護者にも認知が進んでいる。問題は、法への理解があるか、およびいじめ問題への具体的対応を考えられているかどうかを受験生に問うている。

(1)　いじめの認知件数だけでなく、いじめ重大事態の数も増加の一途をたどっている。こうした事態を受験生がどの程度理解しているのかを確認し、いじめが増加する理由を分析するよう求めている。

増加の背景として、いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義やいじめの積極的な認知への理解が広がったこと、一人一台端末を活用した心の健康観察の導入、アンケートや教育相談の充実等による児童生徒に対する見取りの精緻化、SNS 等のネット上のいじめの積極的な認知が進んだこと等を想定している。

(2)　受験生が授業担当者や担任になった時を想定して、どのような方法でいじめを防止するのか、あるいは事後対応をするのかを問うている。各受験生が考える具体策を記すことを求めている。

授業や学級経営の中で留意すべき具体的ポイントや安易にいじめを解消したとせず丁寧に取り組むこと、事後 3 か月程度は注意することなどの記述を想定している。